

# デーヴォ ガイド



**2024.12.23-29**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

## 23日 月曜

### ルカ

1:26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。  
1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。  
1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」  
1:29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。  
1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。  
1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。  
1:32 その子は大きいなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。  
1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」  
1:34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」  
1:35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。  
1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。  
1:37 神にとって不可能なことは何もありません。」



ん。」  
1:38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。」というマリアのことばは、不信仰ではなく、そのみわざの不思議さと驚きからきたものです。どのようにして…というニュアンスです。非常に素朴な好奇心という感じです。マリアはザカリヤのように証明を求めているのではないからです。またマリアは「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」と、全く主に信頼し、主に喜んで服従している心であることがわかります。そのような信仰の人に主の祝福とみわざが届くのです。最近あまり主を感じない…などと思うときもあるかもしれませんが、もしかしたらマリアのような信仰が足りないのかも知れません。祈って考えて見ましょう。そして主のことばにたいして素朴に信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 火曜

ルカ

1:39 それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。

1:40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。

1:42 そして大声で叫んだ。「あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。」

1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。

1:44 あなたのあいさつの声が私の耳に入った、ちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで躍りました。

1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」

1:46 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、

1:47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。

1:48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、

1:50 主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます。

1:51 主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。

1:52 権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。



1:53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。

1:54 主はあわれみを忘れずに、そのしもべイスラエルを助けてくださいました。

1:55 私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみをいつまでも忘れずに。」

1:56 マリアは、三か月ほどエリサベツのもとにとどまって、家に帰った。

エリサベツはマリアと同じく、主からの御心として子を宿しました。聖霊による救い主とは違いますが、それでも主のみわざであることには違いがありません。このように共通することを分かち合う信仰の友はとても励ましになるのです。訪問し合って、または連絡し合って分かち合い祈り合いましょう。

主のみわざによって身ごもるのだと確信したマリアは大いに励まされて、賛美しました。それは主への信頼と希望に満ちたものです。マリアにとっては結婚前に妊娠するという事は身の危険をも意味しましたが、それでも主を信頼して歌ったのです。

これに対して、もしも自分の願いばかりを求める信仰であるとしたら、心は疑心暗鬼になるばかりです。主のみこころがなることを喜んで、本当の平安を受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。  
2:2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

2:3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。

2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。

2:6 そのころが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つめます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

イエス様は全能の創造主であるにも関わらず、皇帝アウグストに比べても小さな弱い存在として、この世に生まれました。そしてその謙遜の限りを尽くしたゆえに、全てにまさる栄誉をお受けになったのです。弱い小さな者であることを恥じることなく、むしろその謙遜を極めて生きましょう。そこにこそ主の栄誉が与えられることを知って、希望としましょう。

宿屋の主人は主イエスをお迎えするにはあまりにむさくしい馬小屋を与えました。私たちは、救い主を心の王座に、人生の中心にお迎えしましょう。

飼い葉おけに赤ちゃんとして地上に來られた救い主は、誰もがへりくだるなら会うことのできるお方として、そのようにお生まれになりました。主のこのような愛を覚えて、いつも主に近づきましょう。

また主が馬小屋にお生まれになったのは、人の心の汚れを、その身にお受けになるという象徴でもあります。私たちは、自分の汚れに敏感に気づき、正直にそれを認め、そして汚れているからこそ主をお迎えしましょう。そしてきよい者と変えていただきましょう。

羊飼いに救い主の誕生が告げられました。彼らはこの世的には報われない人生を送っていた人々でしたが、神様はそのような人々を見過しにはなさらないのです。むしろ、そのような人々を特別に愛して、その栄光を真っ先に表してくださいました。神様の価値観はこの世のものとは違い、ただその人の人格を尊重する愛の方であることが分ります。

羊飼いたちのように、自分がみじめに感じたり、価値がないように感じるときは、主が見てくださるということを思い出しましょう。私た

ちもそのような愛によって育てられ、また同じように人格を尊重する者となりましょう。そして主に喜んでいただき、主に特別に扱っていただけることを信じて、与えられた働きに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 26日 木曜

### 黙示録



20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。

20:12 また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。

20:13 海はその中にいる死者を出した。死とよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。

20:14 それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。

20:15 いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

この少し前の7節ではサタンが解放され、その後にはさばかれます。サタンの解放は、まさにその罪を明らかにするためのもので、さばきのための解放ということです。このように神のさばきは、常に正しく、また明確なものなのです。そしてその後にはこの11節から記されていることが起こります。これは最後の大審判です。第二の死とは神からの永遠の断絶です。このような神の絶対的な権威の前にも、私たちの罪はさばかれることはありません。主イエスの十字架の身代わりがあるからで、私たちの罪がそれゆえに赦されているからです。

おそれおののきつつ、神様の救いに感謝しましょう。主にその感謝を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

21:5 すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

21:6 また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。

21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

21:8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

新天新地のすばらしさがここに表されています。すべてのクリスチャンが、すなわち主イエスの十字架の救いを信じて救われた者が、ここに到達できるのです。大いなる希望のゆえに喜び、感謝しましょう。

今の世では解決できない苦しみや、報われない忍耐、明かにされない誤解などがあるでしょう。しかし、それらがあることのゆえに、主が「目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる」のだと知りましょう。どんな苦しみにあっても、この希望を持ち続けましょう。

「臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者」とは、神を信じないことから来る生き方です。人である限り罪のない者はいませんが、神様を信じた者は罪を”小羊の血で”洗って白く（黙示録7:14）していただきました。ですから私たちにとっては、ここでは「神は人々とともに住み」ということが実現します。ですから私たちは地上にあっても、赦された者としてふさわしい歩みをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 土曜

### 黙示録

21:9 また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」

21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。

21:11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。

21:12 都には、大きな高い城壁があり、十二の門があった。門の上には十二人の御使いがいた。また、名前が刻まれていたが、それはイスラエルの子らの十二部族の名前であった。

21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

21:14 都の城壁には十二の土台石があり、それには、子羊の十二使徒の、十二の名が刻まれていた。

21:15 また、私に語りかけた御使いは、都とその門と城壁を測るために金の測り竿を持っていた。

21:16 都は四角形で、長さと同幅である。御使いが都をその竿で測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

21:17 また城壁を測ると、百四十四ペキスあった。これは人間の尺度であるが、御使いの尺度も同じであった。

21:18 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。



21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、

21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21:21 十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。

「子羊の妻である花嫁」とはイエス様との永遠の愛によって結ばれた者、すなわち救われたクリスチャンたちであり、その集合体である教会のことです。ここでは救われた者たちにどのれほどのすばらしい栄光が待っているかが明らかになります。

「聖なる都新しいエルサレム」の様子がまさのそれです。すなわち最終的な神の国は、この世のものとは全く違う栄光に満ちたものであることがわかります。

私たちは地上では苦しいこともありますし、理不尽なことも敬虔しますが、主はこのような栄光を用意してくださるのです。それは主の全能のゆえであり、また私たち一人一人を愛しておられるゆえです。主に信頼し、永遠の希望を持って生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。

21:23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。

21:24 諸国の民は都の光によって歩み、地の王たちは自分たちの栄光を都に携えて来る。

21:25 都の門は一日中、決して閉じられない。そこには夜がないからである。

21:26 こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。

21:27 しかし、すべての汚れたもの、また忌まわしいことや偽りを行う者は、決して都に入れない。入ることができるのは、子羊のいのちの書に記されている者たちだけである。

「太陽も月も必要としない」とは、神様の栄光と恵がそのままに与えられるからです。太陽や月は、また自然の恵や状況の幸運も、私たちにはなくてはならないように思えますが、実は主こそがなくてはならない方であり、そしてそれで十分なお方なのです。

今も、主の恵で生きる私たちは、天国の前味を味わうことができます。恵を受けるごとに天国の希望を思いましょう。また、ものや現象にか状況によって恵みを受けて喜ぶだけでなく、主ご自身が解決であり幸いなのだと、分かる者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

